

一八〇四年彼はミュンヘンブクゼーに赴き更に彼はイフェルデンに行つた。一八一五年十二月ペスタロッチの夫人が死んだ。それと共に彼は部下の教員を統ぶべき術を失ひ、其學校を死の思を爲して解散し、ノイホーフに赴き一八二七年ブルツクに於て二月十七日死亡し此の世と最後の別を爲したのである。嗚呼、彼死して百年、彼の理想は如何なる状態に進展したか？ 彼をして今日各國の國民教育の實際を見せしめたい。

### ——アメリカから訪ねて来たお人形——

文部省でお宿をしてゐるといふ、アメリカから訪ねて来た先着のお人形さんを見せていただきました。

今までに新聞やなんかで委しく紹介されたから、もう御承知のことでございますが、各々のお人形さんは、みんな旅行免状を持つてゐました。それには寫眞が添へてあり、名まへ産地は無論のこと、目の色鼻の形、髪の色口の形まで記入してございます。又向ふの少女から我國の少女に宛てたお手紙もあつて、それには、そのお人形さんの生活をくわしく知らせてゐるのでございます。旅装も到れり盡せりで、丸で大切にされてゐる一人子の様でした。中でも、贅澤なお人形さんは、立派な手頃の革製のトランクを持つて居ました。その中には洗面道具、結髪、化粧道具、衣服類(夏冬、平常着、晴着靴、靴下、ハケ、何でもかんでもちやんと整へて、幾通りもは入つてゐました。牧師さんらしい風采をしたお人形さんが、小形のバイアルを持つてゐるのには思はずも微笑させられました。うつむく時、目を伏せながらマーと優しい聲を出すなど、可愛らしくも驚くばかり精巧なものでございます。

何れは皆さんの幼稚園にも訪ねて行く事でございますが、一寸お先きに口繪で、寫眞を御紹介いたして置きました次第です。(編者)